

平成28年度米子市スポーツ推進審議会議事概要

1 平成27年度事業報告及び平成28年度事業実施状況について

委員 全国体育運動能力習慣の調査で、鳥取県の子供、中学生の女子でスポーツが好きという子が38%だった。他の県は40%以上あり、全国でワースト1位だった。この結果を市の方でも意識して、事業に反映してほしい。

事務局 調査を所管している学校教育課にも確認し、どのような取り組みができるか協議したい。

委員 米子市はウォーキングの取り組みが非常に多い。これを米子のシンボリックなスポーツにできないか。また、ボートの富田千愛選手が活躍したが、水を使った競技、ボート、カヌーを米子のシンボルにできないか。

事務局 ウォーキング大会は毎月、スポーツ推進委員協議会で実施している。この春には600回を数え、山陰圏内でも定期的にこれだけ長期的に続けているものはなかった。引き続き、米子のシンボルになれるよう頑張っていきたい。

また、ボートについても錦海ボートコースで毎年市民レガッタが開催され、今年の夏には西日本の医科学生の大会が開かれた。競技団体とどのような事ができるか協議していきたい。

委員 企業で働いている30代、40代の方の運動が不足している。企業対抗のような形で大会を開催するなどし、もっと企業の方に参加してもらいたいと思う。

事務局 現在の市民レガッタも一般、初心者などクラス分けをして、いろいろな年代、企業の方にも参加してもらっている。

2 米子市スポーツ推進計画の策定について

委員 鳥取大学との連携事業に関連するが、湊山球場のグラウンドをどうするかというのはまだ決まっていないのか。米子市が整備しなくても、鳥取大学に整備してもらい、米子市民がウォーキングする場に使えたらと思ったが。

事務局 この場では体育課としての立場でしかお話しできないが、現在、港山球場は主に軟式野球の大会や練習で使われている。特に別の用途での利活用がなければ、このまま球場として使っていくこととなるが、市としては、現在、史跡公園化に向けて整備方針等検討中で、鳥取大学との協議も合わせて進められているという状況である。

委員 高齢者でも老人会、いきいきサロンといった活動に関心のある方はすごく熱心だが、出かけない人も多くいると思う。そういった人達にどうしてもらおうか。

事務局 以前は運動の指導者がいて、その方が指導するスタイルだったが、人材にも限りがあるので、今は参加する人が主体で、バックアップとして指導者が付く形になっている。ただ、参加者に女性が多く、男性の参加をいかに促していくか思案している。

委員 障がい者のスポーツ活動はほとんど県障がい者スポーツ協会加盟の団体がやっており、活動費はほとんどが県から出ている。例えば県民スポレクや市民体育祭にそういったスポーツを入れるという事も大事ではないか。リオのパラリンピックで銀メダルを取った、ボッチャなどは非常に自由度のある競技だ。そういった生涯、誰もが楽しめるユニバーサルなスポーツを市民体育祭などに取り入れていくことが大切ではないか。また、バリアフリー化も全てを行うのは不可能だが、できることからやっていく。大事なのは人の力、階段を上がるときに肩を貸すとか。来年の全国障がい者スポーツ大会の予選を米子市でやりたいと思っている。

委員 スポーツ推進計画は10年後のあるべき姿。数値目標とまでは言わないが、例えば子供のスポーツに対する少子化の影響などの現状の課題があるが、どう対処していくか少し具体性がない。最初なので、これはこれでいいが、これをベースに毎年検証して充実させていくという認識で取り扱っていただきたい。